

図画工作科学習指導案

授業 I

3年2組 34名 指導者 福島光二

本授業は、以下の検証を行うものである。

- 製作活動や完成した作品を褒める言葉掛けを教師が工夫することで、自信をもたせたり、形・色・組み合わせを意識させ、工夫して表現する楽しさを味わせたりすると、子どもたちは自分の思いを絵に表すことに喜びを感じ、主体的に活動に取り組むことができるのではないか。

1 題材 心きりり～絵に思いを込めて～（絵に表す）

2 指導計画（総時数7時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
思いをもつ／思いをふくらませる	<p>1 1枚の絵の部分をじっくり見て、まわりの様子をかくことへの興味をもつ。</p> <p>まわりの様子までくわしくかくことにより、見る人が作者の思いに気付くことができたり、理解したりできるということに気付かせる。</p> <p>2 題材の学習のめあてをとらえる。</p> <p>うれしかった思いが伝わるように工夫して絵をかこう。</p> <p>3 人物やまわりの様子が伝わるように工夫する方法を知る。</p> <p>参考作品を比べながら、大小の工夫や、動きの工夫、くわしくかく工夫をすることで思いを伝えることができることを確認してからかかせる。</p> <p>【関：身の回りの出来事から、うれしかったことをくわしく思い出し、絵にかこうとしている。】</p>	0.5 (本時)
自他のよさに気付く／思いを表現する	<p>4 うれしかった思いが伝わるように工夫して絵に表す。</p> <p>絵に表すことが困難な子どもには、かきたい場面の何を大きくかけばよいか、どこをくわしくかけばよいか、どんな動きがよいか気付かせるような言葉掛けをしていく。</p> <p>【技：人物やまわりの様子などの形や色を工夫して表そうとしている。】</p> <p>5 表現の途中でお互いの作品を見せ合い、自分の表現に生かす。</p> <p>【想：うれしかった思いを伝えるのによりふさわしい表し方を考えている。】</p>	5.5
新たな思いをもつ	<p>6 友達と絵を見せ合い、伝わったことや気付いた工夫について話し合う。</p> <p>自分の表現を言葉で説明することが困難な子どもには、ワークシートを見ながら振り返らせ、完成までにした工夫を確認するように助言する。</p> <p>【鑑：絵を見せ合い、友達表現のよさに気づき共感したり、感想を聞いたりしている。】</p>	1

3 本時（1/7）

(1) 目標

うれしかった出来事を効果的に表すために、まわりの様子などをくわしく思い出すことができるようにする。

(2) 評価規準

身の回りの出来事から、うれしかったことをくわしく思い出し絵にかこうとしている。

【造形への関心・意欲・態度】

(3) 指導に当たって

これまでに子どもたちは、感じたことや想像したことから、表したいことを見付けたり、好きな色を選んだり、いろいろな形をつくったりして、自由に表現することを楽しんできた。そこで、この題材では、表したいことを考えながら形や色を生かし、計画を立てるなどして表せるようにしたいと考える。

思いをもつ過程では、1枚の絵の一部から見せていき、何の絵か子どもたちに考えさせる。子どもたちの発表に対して、「どうしてそう思ったの。」と問い直し、形や色をもとに考えられた子どもを賞賛して、形や色という視点を与える。また、見せる部分を広げながら一輪車などのまわりの様子やスカートの折り目など細かな表現の工夫にも気付かせるようにする。そして、「この絵をかいた人はどんな思いを伝えたかったのだろうか。」と問いかけ、表現の工夫と関連付けて説明できた子どもを賞賛し、まわりの様子や細かなところまで工夫すると思いを伝えることができることを伝える。

思いを膨らませる過程では、うれしかった出来事が書かれた日記を紹介しながら、最近、うれしかったことを思い出すようする。なかなか思い出せない子どもには、日記を元に思い出させるようにする。

思いを表現する・自他のよさに気付く過程では、参考作品を比べながら、大小の工夫や、動きの工夫、くわしくかく工夫をすることで思いを伝えることができることを確認してからかかせるようにする。その後、机間指導で子どもの絵のそれぞれのよさを見付けながら、特に大きさや動きなどを工夫してかいている子どもを褒めるようにする。こうして、大きさや動きなどを工夫してかきたいという思いを高めるようにする。また、思うようにつけられない子どもには、日記をもとに話をするなどしてそ

の時の思いについて振り返らせ、一緒に考えるようにする。

新たな思いをもつ過程では、今日の学習を振り返り、自分の工夫したことや友達の頑張ったことを話し合わせる。こうすることで、自分が工夫できたことやこれから工夫したいところ、友達の頑張りに気付かせながら、お互いに認め合う関係を深めるとともに、思いを伝えるための作品づくりへの意欲を高めさせる。

(4) 本時の展開

[] 子どもの意識

指導・手立て

※評価

時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価
7	思いをもつ	<p>1 1枚の絵の一部から序々に見ていき、何の絵か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園かな。 ・お花がかかっているな。 ・一輪車に乗ってる様子かな。 ・指までよくかいているな。 <p>2 題材の学習のめあてを立てる。</p> <p>うれしかった思いが伝わるように工夫して絵をかこう。</p> <p>3 本時の学習のめあてを立てる。</p> <p>うれしかったことを思い出し、うれしかった思いが伝わるように工夫してかこう。</p>
8	思いをふくらます	<p>4 身の回りの出来事から、うれしかったことを思い出す。</p> <p>5 参考作品をもとに工夫する点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいものは大きくかくのか。 ・いろいろな線があったら楽しいな。 ・くわしくかくのは大切だな。 ・まわりの様子も工夫しよう。
23	思いを表現する／自他のよさに気付く	<p>6 思いが伝わるように工夫してかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔を大きくかこう。 ・口を笑っているようにかこう。 ・両手を挙げたポーズをかこうかな。 ・服のしままでかいてみようかな。 ・汗もかいたほうがいいな。 ・ぼくも伝えたいところを大きくかいてみよう。 ・○○さんのようにくわしくかいてみたいな。 ・そうだった。まわりの様子もかいてみよう。 ・まわりはどうだったかな。日記を見て思い出そう。 ・ぼくも先生に褒めてもらいたいな。 ・本当だ。大きさに気を付けてかくと伝えたいところを目立たせることができたぞ。 ・○○くんの絵は、笑ってる顔がよく分かるね。 ・○○さんの絵は、足の動きがよくかいているな。
7	新たな思いをもつ	<p>7 今日の学習を振り返り、自分の工夫したことや友達の頑張ったことについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・びっくりしたことを伝えたいから口を大きくかいたよ。 ・○○さんの絵は爪までくわしくかいてあってすごいな。 ・かき方を工夫するって楽しいな。 ・次の学習でも頑張るぞ。

作者の思いを表現の工夫と関連付けて説明できた子どもを褒め、まわりの様子や細かなところまで工夫すると思いを伝えやすくなることに気付かせる。

子ども自身が自主的に取り組めるように、子どもの意見をもとにめあてを立てるようにする。

絵をかく準備としてうれしかったことをくわしく思い出した方がいいことに気付かせ、本時のめあてへとつなげる。

なかなか思い出せない子どもには、日記をもとに思い出させる。

参考作品を比べながら、大小の工夫や、動きの工夫、くわしくかく工夫をすることで思いを伝えることができることを確認してからかかせる。

子どもの絵のそれぞれのよさを見付けながら、特に大きさや動きなどを工夫してかいている子どもを褒めるようにする。こうして、大きさや動きなどの工夫をしたいという思いを高める。

思うようにはかかない子どもには、日記をもとに話をするなどしてその時の思いについて振り返らせ、一緒に考えるようにする。

※ 身の回りの出来事から、うれしかったことをくわしく思い出し、絵に表そうとしている。

【造形への関心・意欲・態度】

- 表し方を工夫している子どもには、友達と作品を見せ合うように助言し、互いの作品のよさに気付かせる。
- 活動が停滞している子どもには、日記をもとに話をするなどしてその時の思いについて振り返らせ、どんな工夫をすれば伝えられそうかということと一緒に考えるようにする。

自分の活動を振り返らせることで、工夫できたところやこれから工夫したいところ、友達の頑張りに気付かせ、お互いに認め合う関係を深めるとともに、思いを伝えるための作品づくりへの意欲を高める。